

## 「把」構文」中の“着”(zhe)について

布 川 雅 英

### 0. はじめに<sup>(1)</sup>

これまでの先行研究で「把」構文」を成立させるには、少なくとも述語動詞に“了(le)”や“着(zhe)”を付加しなければならないことが指摘されている。しかしながら「把」構文」中の述語動詞に付加された“着”について、詳細な考察を行っている研究は管見の及ぶ範囲では見あたらない。したがって、本稿では「把」構文」中の述語動詞に付加された“着”を考察対象とし、論者なりの方法論で論じて行きたい。このために本稿では次のような方法論を用いる。まず「把」構文」中の述語動詞や把の後の成分及び状況語（連用修飾成分）の意味特徴を抽出する。この抽出された意味特徴をもとに論者は「把」構文」の述部の意味構造を仮定する。次に仮定した意味構造と“着”との関わりを記述することにより、「把」構文」中の述語動詞に付加された“着”の機能を明らかにする。

なお今回本稿で考察対象とするのは史金生・胡晓萍（1998）で取り挙げられている次の5例である。この5例は史金生・胡晓萍によると、いずれも単独で成立する文である。

- (1) 他把身子用力地搓着。

（彼は体を力を込めたままさすった。）

- (2) 我半醒半睡地把头在墙上擦着。  
(私はぼうっとしたまま頭を壁にこすりつけた。)
- (3) 他把我的手紧紧地握着。  
(彼は私の手をしっかりと握った。)
- (4) 他把新买来的大衣反过来穿着。  
(彼は新しく買ってきたコートをひっくり返しにしたまま着た。)
- (5) 他一直把那幅画儿挂着。  
(彼はずっとそのままあの絵を掛けていた。)

## 1. 述語動詞に内在する意味特徴と仮定される意味構造

ここではまず述語動詞に内在する意味特徴について述べ、次に仮定される意味構造について記述して行く。

松村 (1997a : 58-59) (1997b : 58-59) の考察では“死 (死ぬ)” “丢 (なくす)” などの「瞬間動詞」から【瞬間的完成】【非持続】【おわり】という意味特徴が抽出でき、“吃 (食べる)” のような「持続動詞」からは【はじまり】と【持続】という意味特徴が抽出されることが指摘されている (以下【 】は意味特徴を表す)。この考察にもとづき論者は意味構造を次のように仮定する。

「瞬間動詞」は【瞬間的完成】【非持続】【おわり】という意味特徴を抽出できることから、動詞自身が動作行為の意味上の「おわり」を明示できると考える。したがって、仮定される意味構造上の「おわり」の部分に置かれる。また、「持続動詞」からは【はじまり】と【持続】という意味特徴が抽出されるので、意味構造の中では「はじまり」の部分に置かれると考える。次の仮定される意味構造を見られたい。

瞬間動詞の意味構造中の位置

仮定される意味構造 <[ ] [瞬間動詞]>

【おわり】

瞬間動詞“丟”の意味構造中の位置

仮定される意味構造 <[ ] [丟]>

【おわり】

持続動詞の意味構造中の位置

仮定される意味構造 <[持続動詞] [ ]>

【はじまり】

持続動詞“吃”の意味構造中の位置

仮定される意味構造 <[吃] [ ]>

【はじまり】

## 2. 「“把”構文」の述語が要求する意味的特徴

論者は「“把”構文」では処置を明確にするために意味上、述語動詞の表す動作行為の全体あるいは「おわり」をとらえることが必要であると考えている。ここでは「瞬間動詞」と「持続動詞」の例をそれぞれ挙げて、具体的に説明しよう。まずは「瞬間動詞」の例である。(6)の述語動詞“丟(なくす)”は「瞬間動詞」であり、動詞自身が動作行為の「終わり」を明示できるので、この動詞から抽出される意味特徴は【おわり】である。したがって、動作行為の「終わり」が明示されることによって、“丟”は“丟”のみで動詞の表す動作行為の全体がとらえられる。ゆえに(6)は“了”を付加しただけで成立可能であると考えられる。例を見られたい。

(6) 昨天他把自行车丢了。(刘月华他 1983)

(昨日彼は自転車をなくしてしまった。)

## 述語動詞“丟”の仮定される意味構造中の位置

く[ ] [丟]>

【おわり】

これに対し次の(7)は「持続動詞」の“写”が述語動詞に用いられている例である。(7)はインフォーマントによると“了”を付加しただけでは成立しない。(以下例前の\*は不成立を表す)

(7) \*我把小说写了。(作例)

(私は小説を書いた。)

なぜ(7)は成立しないのであろうか。論者は次のように考える。上述したように「持続動詞」からは【はじまり】と【持続】という意味特徴が抽出されるので、意味構造の中では「はじまり」の部分に置かれる。“写”は理論上動作行為を持続することができる「持続動詞」であり、仮定される意味構造中の位置は「はじまり」の部分に置かれる。つまりく[写][ ]>となる。このままでは意味構造上「はじまり」が明示されるだけで、「おわり」を明示する成分がない。したがって、「持続動詞」“写”の動作行為の全体あるいは「おわり」をとらえることができない。ゆえにこのままでは処置が明確にならず、(7)は成立しないと結論づけられる。

では「持続動詞」を「“把”構文」の述語動詞に用いた場合、どうすれば成立が可能となるのであろうか。再び松村(1997a:59)の考察を引用しよう。松村(1997a:59)では中国語の動補構造に内在する意味について、次のように考えている。「“吃完(食べ終わる)”のような動補構造では、“吃”は「食べる」という意味を表すと同時に「食べる」という動作の【はじまり】とその【持続】をも表し、後ろの成分“完”は「終わる」というそれ自身の持つ意味と同時に「食べる」という動作の【おわり】をも示す。」つまり「持続動詞」の場合「おわり」を明示する成分として結果補語を述語動詞に付加すれ

ば述語動詞の表す動作行為の全体あるいは「おわり」をとらえることができるのではないか。論者は“我把小说写了”に結果補語“完”を付加した“我把小说写完了”の成立の可否をインフォーマントに確認したところ、成立可能との回答を得た。次の(8)は“写”の意味上の「おわり」が結果補語の“完”によって明示されている。これによって「持続動詞」“写”の表す動作行為の全体あるいは「おわり」がとらえられる。したがって、(7)とは異なり(8)では処置が明確になり成立すると考えられる。例を見られたい。

(8) 我把小说写完了。(作例)

(私は小説を書き上げた。)

“写完”の仮定される意味構造中の位置

〈[写]            [完]〉

【はじまり】    【おわり】

では「“把”構文」中に用いられる「持続動詞」の表す動作行為の全体あるいは「おわり」をとらえる成分は結果補語だけであろうか。「“把”構文」の先行研究では「“把”構文」に用いる述語動詞には動詞の後にその他の成分を付加しなければならず、もし動詞の後にその成分がともなわない場合は動詞の前に連用修飾語が必要であることが指摘されている(李臨定1993:264-274)。この事から論者は結果補語以外にも「持続動詞」の表す動作行為の全体あるいは「おわり」をとらえる成分があると考え。ここではそのすべてを挙げることはできないが、動量補語、時量補語、数量限定された目的語が用いられた例を挙げることにしよう。

次の(9)は述語動詞“抄(書きうつす)”の後に動量補語“一遍(一回)”が付加された例である。論者は動量補語が付加されることによって「持続動詞」“抄”の動作回数が明確になり、“抄”の表す動作行為の「おわり」が明示されると考える。したがって、動量補語も結果補語と同様に意味構造中の「おわり」に置かれ、〈[抄] [一遍]〉という意味構造を仮定することができる。

ゆえに動量補語も「持続動詞」の表す動作行為の全体あるいは「おわり」をとらえる成分と考えられる。例を見られたい。

(9) 我把他的稿子重新抄了一遍。(李临定 1993)

(私は彼の原稿をあらためてもう一遍書きうつした。)

“抄一遍”の仮定される意味構造中の位置

〈[抄] [一遍]〉

【はじまり】 【おわり】

次の(10)は述語動詞“关(監禁する)”が用いられ、その後に時量補語“三个月(三ヶ月)”が付加された例である。(10)では時量補語が付加されることによって“关”という動作行為の時間量が明確になり、理論上「監禁し続ける」ことが可能な「持続動詞」“关”の表す動作行為の「おわり」が明示される。したがって、時量補語も意味構造中の「おわり」の部分に置かれ、〈[关] [三个月]〉という意味構造を仮定することができる。ゆえに時量補語も「持続動詞」の表す動作行為の全体あるいは「おわり」をとらえる成分と考えられる。例を見られたい。

(10) 敌人把他在监狱里关了三个月。(刘月华他 1993)

(敵は彼を監獄に三ヶ月監禁した。)

“关三个月”の仮定される意味構造中の位置

〈[关] [三个月]〉

【はじまり】 【おわり】

(11)は述語動詞“吃(食べる)”の目的語“苹果(リンゴ)”に“那个(あの一つの)”という数量限定成分が付加された例である。“吃”は理論上「食べる」ことを無限に行える「持続動詞」である。したがって、“吃(食べる)”は意味構造上「はじまり」の部分に置かれる。“吃”の目的語の“那个苹果(あ

の一つのリンゴ)”は“那个”によって目的語の数量が明確になっている。目的語の数量が明確になることにより、“吃”という動作行為の回数が明確になる。ゆえに動作行為の「おわり」が明示される。このことから、数量限定された目的語も「持続動詞」の表す動作行為全体あるいは「おわり」をとらえる成分と考えられる。例を見られたい。

(11) 我把那个苹果吃了。(李临定 1993)

(私はあのリンゴを食べてしまいました。)

“吃那个苹果”の仮定される意味構造中の位置

〈[吃]            [那个苹果]〉

【はじまり】    【おわり】

### 3. 具体的な考察

本章では史金生・胡晓萍(1998)で取り挙げられている5例について、具体的に考察をおこなって行く。

次の(12)の述語動詞“搓(さする)”は理論上「さする」ことを無限に行える「持続動詞」である。したがって、“搓”は意味構造上「はじまり」の部分に置かれる。“把”の後に置かれている“身子(体)”は述語動詞“搓”の対象であり、“搓身子”という形式が本来の順序と考えられる。“身子”は“把”の後の成分であり、意味上「確定的」である。そこで〈[搓][身子]〉という意味構造が仮定され、ゆえに「持続動詞」の表す動作行為の全体あるいは「おわり」がとらえられるのである。しかし、論者が“他把身子搓着”の成立の可否をインフォーマントに確認したところ、成立が不可であるとの回答を得た。この回答から「体をさすっている」ということを述べるだけでは、述語動詞に“着”が付加された「把」構文」が成立しないことが理解できる。ではなぜ(12)は成立するのであろうか。この場合、論者は「把」構文」が成立するには単に動作行為を述べるだけでなく、処置を明確にするために動

作行為の結果を表す成分が必須であると考え。 (12) で結果を明示する成分はどれであろうか。論者は“用力地”に注目した。「体に力を込める」ことは常識的に継続して行なえず、【臨時性】という意味特徴が抽出できる。したがって、“用力地”は動詞の表す動作行為の様態を表すと同時に、動作行為の結果をも明示する成分である。ゆえに、動作行為の結果が明示されることにより、処置が明確になるため (12) は成立するのである。また、結果が明示されることにより、これに付加される“着”は結果持続を表す“着”，つまり「時態の“着”」と結論づけられる。例と仮定される意味構造を見られたい。

(12) 他把身子用力地搓着。(史金生, 胡晓萍 1998)

(彼は体に力を込めたままさすった。)

仮定される意味構造

動作行為の様態【臨時性】

→動作行為の結果を明示。( ) で表す。

↓

{(用力地 <[搓] [身子]>) + 時態の着}

↑

動詞の表す動作行為がまとまる。< > で表す。

<[搓] [身子]>だけでは動作行為を表すのみで処置が明確にならない。“用力地”は動詞の表す動作行為の様態を表すとともに動作行為の結果を明示する。

結果が明示された出来事に付加されるのは、結果持続の“着”，つまり「時態の“着”」である。

(13) の述語動詞は“擦(こする)”である。“擦”も動作を無限に行える「持続動詞」である。したがって，“擦”は意味構造上「はじまり」の部分に置かれる。“把”の後の成分“头(頭)”は述語動詞“擦”の対象であり，“擦头”



という形式が本来の順序と考えられる。“頭”は“把”の後の成分であり、意味上「確定的」である。そこでく[擦][頭]>という意味構造が仮定され、ゆえに「持続動詞」の表す動作行為の全体あるいは「おわり」がとらえられる。しかし、インフォーマントに“我把头在墙上擦着”の成立の可否を確認したところ、成立しないとの回答を得た。したがって、「頭をこすっている」を記述しただけでは“着”が付加された「“把”構文」が成立しないことが理解できる。次に(13)が成立する理由を考えてみよう。上述したように“着”を付加した「“把”構文」が成立するには、処置を明確にするために動作行為の結果を表す成分が必須である。(13)における結果を明示する成分は“半醒半睡地(ぼうっとする)”であると考える。「ぼうっとする」ことも常識的にいつか終わりが来ることであり、【臨時性】という意味特徴が抽出できる。したがって、“半醒半睡地”は動詞の表す動作行為の様態を表すと同時に、動作行為の結果をも明示する成分である。ゆえに、動作行為の結果が明示されることにより、処置が明確になるため(13)は成立する。また、結果が明示された出来事に付加される“着”は結果持続を表す“着”，つまり「時態の“着”」である。例と仮定される意味構造を見られたい。

(13) 我半醒半睡地把头在墙上擦着。(史金生, 胡晓萍 1998)

(私はぼうっとしたまま頭を壁にこすりつけた。)

仮定される意味構造

動作行為の様態【臨時性】

→動作行為の結果を明示。( )で表す。

↓

{(半醒半睡地 く[擦][頭]>) + 時態の着}

↑

動詞の表す動作行為がまとまる。く >で表す。

く[擦][頭]>だけでは動作行為を表すのみで処置が明確にならな

い。“半醒半睡地”は動作の表す動作行為の様態を表すとともに動作行為の結果を明示する。

結果が明示された出来事に付加されるのは、結果持続の“着”，つまり「時態の“着”」である。

(14) の述語動詞は“握（握る）”である。“握”も動作を無限に行える「持続動詞」である。したがって，“握”は意味構造上「はじまり」の部分に置かれる。“把”の後の成分“我的手（私の手）”は述語動詞“握”の対象であり，“握我的手”という形式が本来の順序である。“我的手”は“把”の後の成分であり，且つ“我的”という限定成分が付加されており，意味上「確定的」である。そこでく[握][我的手]という意味構造が仮定され，ゆえに「持続動詞」の表す動作行為の全体あるいは「おわり」がとらえられる。しかし，論者が“他把我的手握着”の成立の可否をインフォーマントに確認したところ，成立が不可であるとの回答を得た。これは「私の手を握っている」と述べるだけでは述語動詞に“着”が付加された「“把”構文」が成立しないことが理解できる。次に(14)が成立する理由を論者なりに説明しよう。これまで述べてきたように，“着”が付加された「“把”構文」が成立するには，処置を明確にするために動作行為の結果を表す成分が必須であり，(14)における結果を明示する部分は“紧紧地（しっかりと）”である。「きつく，しっかりと」することも常識的に継続して行なえず，【臨時性】という意味特徴が抽出できる。したがって，“紧紧地”は動詞の表す動作行為の様態を表すと同時に動作結果の結果をも明示する成分である。ゆえに，動作行為の結果が明示されることにより，処置が明確になるため(14)は成立する。また，結果が明示された出来事に付加される“着”は結果持続を表す“着”，つまり「時態の“着”」である。例と仮定される意味構造を見られたい。

(14) 他把我的手紧紧地握着。（史金生，胡晓萍 1998）

（彼は私の手をしっかりと握った。）

仮定される意味構造

動作行為の様態【臨時性】

→動作行為の結果を明示。( ) で表す。

↓

{(紧紧地 <[握] [我的手]) + 時態の着}

↑

動詞の表す動作行為がまとまる。〈 〉で表す。

<[握] [我的手]>だけでは動作行為を表すのみで処置が明確にならない。

“紧紧地”は動作の表す動作行為の様態を表すとともに動作行為の結果を明示する。

結果が明示された出来事に付加されるのは、結果持続の“着”，つまり「時態の“着”」である。

(15) では述語動詞に“穿（着る）”が用いられている。“穿”も動作を無限に行える「持続動詞」である。したがって，“穿”は意味構造上「はじまり」の部分に置かれる。“把”の後の成分“新买来的大衣（新しく買ってきたコート）”は述語動詞“穿”の対象であり，“穿新买来的大衣”という形式が本来の順序と考えられる。“新买来的大衣”は“把”の後の成分であり、且つ“新买来的”という限定成分が付加されており、意味上「確定的」である。そこで<[穿] [新买来的大衣]>という意味構造が仮定され、ゆえに「持続動詞」の表す動作行為の全体あるいは「おわり」がとらえられる。しかし、インフォーマントに“他把新买来的大衣穿着”の成立の可否を確認したところ、成立が不可であるとの回答を得た。このことにより「新しく買ってきたコートを着ている」と述べるだけでは処置が明確にならず、述語動詞に“着”が付加された「“把”構文」が成立しないことが理解できる。では次に(15)が成立する理由を述べて行こう。これまで述べてきたように、「“把”構文」が成

立するには、処置を明確にするために動作行為の結果を表す成分が必須である。(15)における結果を明示する成分は“反過來（ひっくり返しに）”である。「ひっくり返しに」したままにしておくことは常識的にありえない。このことから“反過來”からも【臨時性】という意味特徴が抽出できる。したがって、“反過來”は動詞の表す動作行為の様態を表すと同時に動作行為の結果をも明示する成分である。ゆえに、動作行為の結果が明示されることにより、処置が明確になるため(15)は成立する。また、結果が明示された出来事に付加される“着”は結果持続を表す“着”，つまり「時態の“着”」である。例と仮定される意味構造を見られたい。

(15) 他把新买来的大衣反過來穿着。(史金生，胡晓萍 1998)

(彼は新しく買ってきたコートをひっくり返しにしたまま着た。)

仮定される意味構造

動作行為の様態【臨時性】

→動作行為の結果を明示。( ) で表す。

↓

{(反過來<[穿][新买来的大衣]>)+時態の着}

↑

動詞の表す動作行為がまとまる。< > で表す。

<[穿][新买来的大衣]>だけでは動作行為を表すのみで処置が明確にならない。

“反過來”は動詞の表す動作行為の様態を表すとともに動作行為の結果を明示する。

結果が明示された出来事に付加されるのは、結果持続の“着”，つまり「時態の“着”」である。

(16) の述語動詞は“挂（掛ける）”である。“挂”は「たくさんの絵をかけ

る」のような場合、「持続動詞」と考えられる。したがって、“挂”は意味構造上「はじまり」の部分に置かれる。“把”の後の成分“那幅画儿（あの絵）”は述語動詞“挂”の対象であり，“挂那幅画儿”という形式が本来の順序である。“那幅画儿”は“把”の後の成分であり、且つ“那幅”という限定成分が付加されており、意味上「確定的」である。そこでく[挂][挂那幅画儿]〉という意味構造が仮定される。ゆえに「持続動詞」の表す動作行為の全体あるいは「おわり」がとらえられる。しかし、インフォーマントに“他把那幅画儿挂着”の成立の可否を確認したところ、成立が不可であるとの回答を得た。このことから「あの絵を掛けている」と述べるだけでは処置が明確にならず、述語動詞に“着”が付加された「“把”構文」が成立しないことが理解できる。では(16)が成立する理由を論者なりに解説しよう。これまで述べてきたように「“把”構文」が成立するには、処置を明確にするために動作行為の結果を表す成分が必須である。(16)における結果を明示する成分は“一直（ずっと）”である。“一直”は「ずっと」という意味を表すことから、【恒久性】という意味特徴が抽出できる。“一直”は「たくさんの絵を掛け続けている」という場合は述語動詞の“挂”と関わりを持つ。しかし、この例の“挂”の目的語は“那幅画儿”であり、「特定の絵を掛ける動作」をずっと続けることは不可能である。「あの絵を掛ける」ことは瞬時に終了してしまい、その結果の状態が続くのである。したがって、この例の“一直”は形式上は動詞の表す動作行為の様態を表すが、意味上は“着”と関わりを持つ。ゆえに、動作行為の結果が明示されることにより、処置が明確になるため(16)は成立する。また、結果が明示された出来事に付加される“着”は結果持続を表す“着”，つまり「時態の“着”」である。例と仮定される意味構造を見られたい。

(16) 他一直把那幅画儿挂着。(史金生, 胡晓萍 1998)

(彼はあの絵をずっとそのまま掛けていた。)

仮定される意味構造

## 動作行為の様態【恒久性】

→動作行為の結果を明示。( ) で表す。

↓

{(一直く[挂][那幅画儿]) + 時態の着}

↑

動詞の表す動作行為がまとまる。く &gt; で表す。

く[挂][那幅画儿]>は瞬時に終了する動作行為を表すのみで処置が明確にならない。

“一直”は動詞の表す動作行為の様態を表すとともに意味上“着”と関わりを持つ。

結果が明示された出来事に付加されるのは、結果持続の“着”，つまり「時態の“着”」である。

## 4. おわり

本論は史金生・胡晓萍(1998)で取り挙げられている5例について論者なりの方法論で考察を行った。その結果、これら5例はいずれも連用修飾成分が付加されることによって動作行為の結果が明示され、「“把”構文」が成立すると考えられ、このような「“把”構文」の述語動詞に付加される“着”は「時態を表す“着”」であると結論づけられた。また、論者はこれまで“了”や“过”が述語動詞に付加された「“把”構文」の考察も行ない、“了”や“过”の場合は動詞の表す動作行為の全体をとらえることができれば「“把”構文」が成立すると論じてきた。しかし、今回の考察によると“着”の場合では、動詞の表す動作行為の全体をとらえるだけでは「“把”構文」が成立せず、必ず動作行為の結果を明示する成分が必要であることが理解できた。この問題については今後も更に多くの例を収集し、考察を続けて行きたいと思う。

注

- 1) 本稿は 2001 年 6 月 23 日（土）日本中国語学会関東支部 6 月例会（於神奈川県）での発表原稿に訂正加筆したものである。

参考文献

- 龚千炎, 1995, 『汉语的时相 时制 时态』, 商务印书馆.
- 加藤宏紀, 2000, 「現代中国語における時間概念の形成モデル—“了”“着”“过”の意味研究—」, 日本中国語学会創立 50 周年記念大会 発表レジュメ.
- 李临定, 1993, 『中国語文法概論』(宮田一郎訳), 光生館.
- 刘月华 他, 1983, 『实用现代汉语语法』, 外语教学与研究出版社.
- 松村文芳, 1997a, 「結果補語（動詞）を持つ動詞の意味特徴」, 『中国語』, 10月号, pp. 58-60, 内山書店.
- 松村文芳, 1997b, 「結果補語になる動詞の意味特徴」, 『中国語』, 11月号, pp. 58-60, 内山書店.
- 松村文芳, 1998, 「動態助詞“着”の意味上の役割」, 『中国語』, 3月号, pp. 58-60, 内山書店.
- 史金生・胡晓萍, 1998, 「动词带“着”的“把”字结构」, 『语言教学与研究』, 第4期, pp. 38-49.
- 朱德熙, 1982, 『语法讲义』, 商务印书馆.